

## 第1回 高機能部会(通常部会)の報告と次回のご案内

去る6月16日、今年度最初の高機能部会を開催しました。

当日は小学生から大学生までのお子様をお持ちの保護者の方が集まり計7名の参加でした。

現在の子どもの状況を紹介し、それについて各々が家庭や学校で取り組んでいることを伝えあいました。子どもの学び先(学籍・校区)について本人の意思と大人側の意向を調整する際に何を優先順位に置くか、意思決定を尊重する場合どのような支援や配慮が必要になるのか考えさせられました。また、幾つかのやり取りで…今回は感覚過敏(鈍麻)も話題に上りました。お子さんが成長されて自分の言葉で身体感覚について親御さんへ伝えることができ、それに困って当時の子どもの状況を理解し納得することができたと言われておりました。感覚は個々人に固有のもので、しかも生まれながらにして感じているので過敏や鈍麻とかの判断は当人には難しく(ある当事者の方は「生まれた時からそう感じているので皆も同じだと思っていた」と話されます)、お子さんの体調がすぐれない時は『視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚・前庭感覚・固有感覚』に作用する刺激(光・音・給食(臭い・味)・気温・気圧・振動・特定の活動…)、これ等が我が子に何らかの影響を与えているのかも…といった事柄にも留意することが必要だと改めて感じました。

次回は9月13日(日)、札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる 相談担当 西尾 美里 氏を講師にお迎えして『子どもの学校生活における保護者の役割で知っておきたいこと』についてお話していただきます。詳細は8月号でご案内いたします。

報告：古屋

高機能自閉症とは、高機能の目安として「IQ≧70 以上」という基準が用いられることが多く、高機能ということが必ずしも知的能力が平均よりも高いというわけではありません。また、IQが130~140台あるような人たちでも、自閉症として「軽い」ということに一直線には繋がるわけではありません。

(社)日本自閉症協会HPより、内山登紀夫先生の解説を一部抜粋しています。



### 申し込み先

・メールアドレス : poplar\_hi@yahoo.co.jp

・FAX : 020-4669-9661

資料準備のため人数を把握しますので参加申込みをお願い致します。

次回学習会は(定員35名、会員300円 : 一般600円)、どなたでもご参加いただけます。申し込み受付は8月15日から、定員を超えた場合のみご連絡致します。当日は直接会場へお越しください。

